

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下

1992

9・30

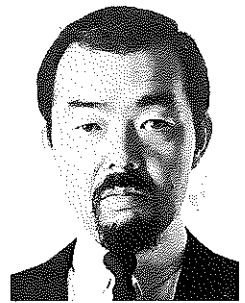
No. 12



新装なった世田谷地区施設

主 な 記 事 (社会福祉法人 友愛十字会 世田谷地区施設整備事業完成記念特集号)

- おことば 総 裁 三笠宮寛仁親王殿下
- 挨拶 会 長 加 藤 威 二
- 祝 辞 厚生大臣代理 社会局長 末 次 彬
- 工事経過報告 常務理事 草 原 国 司



おことば

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛 仁 親 王

本日は、私どもの落成式に当たりまして、この様に多くの方々においでいただきまして、有難うございます。

只今、会長が申し上げました様に、官民をあげて多大なご尽力を戴きましたことがこの落成式に結びつきました。その中でも特に地元の世田谷区に大きなご協力を頂いたと常務理事から報告がございました。総裁といたしまして心から感謝をいたします。しかしながら我々社会福祉活動をしている人間にとつて、応援の大小を問わず、官民をあげて一人でも多くの方々がかわつてくださる事が一番嬉しいわけでありまして、そういう意味では協力者は無数と申し上げていいと思います。本日を迎えることが出来た事はこのような方々のご援助の賜物であります。本当に心から御礼申し上げます。

歴史でありますとか、経緯でありますとか、活動状況、全部今会長が言つてしまいました。従いまして、総裁としていさか違う事をお話し致します。お話しにもありましたように父親が永い間法人の総裁を務めておりました。彼は本職は学者でありまして、私自身は父がこれをやっていたときには、スポーツ振興と青少年育成に携わつていて社会福祉とは何の縁もない人間でありましたけれども、ちょうど二十年前にある事から社会福祉の道を歩むようになりました。父はそれを発見した時、「自分は学者の道を進むので総裁をかわつて欲しい」と私に依頼し、以来今日に至りました。この足掛け二十年の私の社会福祉の現場での色々な体験の中から、障害者問題を考えますに、今日はいいい機会でありますので皆様方に、二つだけお願いをしておきたい事があ

ります。

まず、我々のモットーといいますが、スローガンは、健常者と障害者という二つの分け方をしないと言うことに大きなポイントを置いております。二つに分けてしまいますと、人類あるいは日本人には二種類しかないような気がいたします。そうではなくて私達は部門別に福祉を考えます。部門別に障害程度を考えていきたいという事を提唱しております。医学的に物理的な障害がある場合、これは仕方がない訳ですけれども、我々専門用語で言うところの残存部位の残存機能というものは、必ずやどんな重度の障害を持つ人々の中にもあるはずであります。なおかつ又私たちは一応健常者と言われている訳でありますけれども、果して一〇〇%健常であるかというのは、余程チェックをなさつてみないと分かりません。例えば、私のようにご承知の通り昨年、食道癌などという大きな手術をいたしました、物理的に重度障害になりました。しかしながら、残された機能はけっこうありまして、例えばこの喋ることは何とかできますし、それから相変わらずスキートの教師をやっています、組織を動かすことも出来ますし、今喋り

ました会長は、厚生事務次官までやりましたから役人としては大健常でありましたけれども、私の指導しているスキーでは、大障害でありますし、そういう風に色々な形で健常の部分と障害の部分と併せ持つて我々は生きていくということを、私達は絶対理解しなければならぬということをお願いしてやっております。

今回素敵な建物が七つばかり出来ましたけれども、社会福祉をこの施設の中に閉じ込めるといふ発想は私たち好きではありません。入所している人たちも色々な千差万別な障害を持つてゐる訳でありますけれども、今お話ししたような形で部門別に考えていただいて、残存機能の能力開発を一所懸命サポートしていただきたい。そしてともにボランティアをしていこうじゃないか、一方通行の福祉というのはおかしい、健常者だけが障害者のボランティアをするというのはおかしいですよ、というのが私達のテーマであります。そして、今申し上げましたことを実現するために、お医者さんではありませんけれども、視診、問診、触診が絶対必要だということをお願いしておきたいと思ひます。見て診断して、問う

て診断して、そして最後は触つてゐるいは触れて診断する。この三つを我々日本人は確認することがとても下手であります。従つて健常者と障害をもつ人々の間に妙なつまらない誤解が積み重なつて区別或いは差別になつてしまふ傾向がありますし、端的な例として私も皇族を皆様方国民は、視診、問診、触診して下さらないものですから、自分たち国民は凄く自由だけど、さぞや菊のカーテンの向こうで、或いは、雲のうゑで、皇族の方々はご窮屈でしょうね、ご不自由でしょうねとよくおっしゃいます。そういう部分もありますけれども、自由奔放に生きてゐる部分もあるわけでして、結構楽しく私なんかは、生きてゐるわけでありまゝ。従ひまして、障害を持つ人々にも遠慮しないで視診、問診、触診を施して頂いて、そして、本人が何を一番好んでゐるか、何をサポートしてもらいたいか、そして我々サイドからすると磨けば光る玉ならば磨こうじゃないか、磨いても光らない玉を一所懸命磨いてもしょうがないと思ひますけれども。こういった視診、問診、触診の勧めめという事を私達は二十年間言い続けてまいりました。どうかこの健常、障害の二つだけ

に分けないこと。それから障害を持つ人々と付き合うときに視診、問診、触診から入つて頂くこと。この事を今日この落成式の記念すべき日に当たりまして、ご臨席の皆様方をお願いをして、我々これから世田谷地区における、第二の歩みを始めたいと思ひます。

どうかご臨席の皆様方はもちろん、総裁を始めとする我々職員サイドの人間たちも今一度福祉の原点を再考する必要があるわけでありまゝ。どうか落成式のお祝ひにあたり、これらの諸点を銘記して戴きたいと思ひます。今日は本当に有難うございました。



挨

拶

社会福祉法人 友愛十字会

会長 加藤 威 二

皆様方、お忙しい中を、また足の便が非常

に悪い所を、施設整備の落成記念式典にご参加いただきまして誠に有難うございます。厚く御礼を申し上げます。

当、友愛十字会は、戦後間もない昭和二十五年に財団法人として発足致しました。この経緯については、ご出席の皆様方の中にも、よ

く御存知の方がおありと存じます。

昭和二十五年と申しますと、まだ戦後の混乱状態が続いておりました。当時、戦争で傷つき、あるいは病気になるれた傷痍軍人の方々は、「国からの援助は一切まかりならん」とのGHQの命令によりまして、病院の外で已むに已まれず、生きるために白衣を着て街頭募金をするという、非常に惨めな状態にあつたわけでございます。

それをハワイにおられました同胞の方々が耳にされて、これは大変だ「こういう戦争の犠牲者、国の命令で戦争に行った人達、そういう人達が傷つき、あるいは病気で困っているときに、国として面倒見れないということであれば、一つ我々が出来る限り援護しようじゃないか」ということで、その方々が自発的に募金運動をされました。

そして当時のお金で一〇〇万円を送って頂いたでございます。当時の一〇〇万円と申

しますと、今のお金に直しますと、だいたい四、〇〇〇万円位に当たろうかと存じます。

その貴重なご厚意によるお金を基金といたしまして、この友愛十字会が、財団法人として発足致したわけでございます。そして傷痍軍人の方々をはじめ、身体障害者の福祉のための事業を始めたわけでございます。その後昭和二十六年に、社会福祉事業法という法律が施行されて、それを受けて友愛十字会も財団法人から社会福祉法人へと衣替えを致しました。以後、身体に障害がある方のみならず老人福祉のほうにも取り組んで参ったのでございます。

おそらく我が友愛十字会は、社会福祉法人としてはもつとも古い、もつとも伝統のある団体の一つではないかと存するのでございます。

昭和二十八年に、本日ご臨席いただきました寛仁親王殿下のお父上に当たります三笠宮崇仁親王殿下がこの友愛十字会の総裁にご就任なされました。そして今から約二十年程前の昭和四十九年に、寛仁親王殿下がお父上の後を継がれまして友愛十字会の総裁にご就任なされました。寛仁親王殿下は、障害者に非常に深いご関心をお持ちになつておられます。



また、ご自身でも熱心に勉強研究されて、我が十字会の事業につきましても、折りに触れて具体的なご指導をいただいております。こうした殿下のご指導並びに、関係の皆様方のご指導、ご鞭撻によりまして、友愛十字会は今日まで歩んで参ったわけでございます。

ただ、数年前から私どもが非常に心配いたしておりましたのは、建物の老朽化でございます。この地区に最初の建築を行いましたのは、昭和三十六年だったと思います。それから三十年余りが経過しまして、残っておりますものでも、だいたい二十年以上経ったという老朽の建物だったわけでございます。しかも入っておられる方は、お年寄りかあるいは身障者です。万一大きな地震でもあれば大変な災害につながりかねない、ということで私どもと致しましてはなるべく早く建て替えが行えるようにいろいろと検討いたしていたわけでございます。問題は、先立つお金が工面できないということでした。もちろんこういった社会福祉施設の建築あるいは改築におきましては、厚生省や東京都からそれぞれ補助金をいただくことができますが、勿論それだけでは足りません。それ相当の法人負担を覚悟しなければ、増改築ができない

のでございます。その財源の目処が立たないということでは私どもは悩んでおったのでございます。

日頃、地元でございます世田谷区の当局の方に、友愛十字会の事でいろいろご相談し、ご指導をいただいていたわけでございますが、この我々の増改築の希望についてもお話し致しました。そうしたところ、もし友愛十字会が増改築に際して、従来の身体障害者の授産事業あるいは養護老人ホーム等の事業ばかりではなく、その他に例えば寝たきり老人の介護をする特別養護老人ホームを、あるいは身体障害者の方々や老人の方々へのデイサービスやショートステイ事業を、新たに実施するならば、世田谷区としても出来るだけ援助しようというお話がございました。私どもとしてもそれは本当にありがたいことだと感謝致しました。伝統ある友愛十字会としてもなるべく社会のニーズに沿った事業の運営を行う必要があるのではないか、そういった意味でこの特別養護老人ホーム、デイサービス事業あるいはショートステイ、こういう仕事を実施するということは会の趣旨に合っている訳でございます。こういう事情によりまして、世田谷区ご当局から絶大な財政的ご支

援を頂くことができました。おそらく世田谷区のご協力がなければ、本日このような施設の整備は出来ていなかったと思います。世田谷区のご協力に対して、本当に心から厚く御礼を申し上げたいと存じます。

その他、国、東京都は勿論でございますが、関係の助成団体がございまして、東京都の共同募金会あるいは中央競馬会からもご援助戴いております。また、ボランティアの方々からもご援助戴いております。こうした官民あげてのご支援によりまして、今日のこの落成式を迎えることが出来たわけでございます。

友愛十字会の施設整備事業は、国、東京都や世田谷区のご援助を中心に致しまして、平成元年の十二月から増改築工事に着工致しまして約二年余り、今年の三月末に大体の工事が終了しまして本日の落成式典を迎えることが出来たわけでございます。

私どもといたしましてはこの増改築落成を契機と致しまして、伝統のある友愛十字会の仕事に職員一同更に引き締めて取り組んで参りたいと存じますので今後とも本日ご出席の皆様方の絶大なるご支援、ご鞭撻をお願い致してお礼の言葉とさせていただきます。皆様どうもありがとうございました。

工事経過報告

社会福祉法人 友愛十字会

常務理事 草原国司

○施設整備を必要とした理由

今回の施設整備事業を計画した理由は、皆様ご承知の昭和五十六年の国際障害者年に遡ることになります。と申しますのは、当友愛十字会は、設立の当初から身体障害者の更生援護を行う団体として発足した経緯もあり、身体障害者の福祉については常に関心を持っておりましたので、この記念すべき年に、国際障害者年の記念事業の一つとして当法人の将来の方向づけを検討するために委員会を設けたのでございますが、その委員会で、当時すでに老朽化していた建物の改築について問題提起されたのが、今回の建設計画を進めることになった発端でございます。

この委員会で建替え論が出た理由は、大きく分けて二つございました。一つは、その対象となった建物は、いずれも昭和四十年前後に建てられたもので、当時、国の補助金の対象として鉄筋によることを認められた初期の頃の建物でございます。その後、永い歳月を経ておりますが当時国が定めた建築基準面積や単価は今日のそれとは比べようもないほど低く、今日の入所

者処遇に、従来の建物では対応できない状況になっていたのでございます。今一つは、社会福祉施設で最も重大な関心事といわれております非常災害時の防災対策が不十分で、早急に改善を必要とする状況にあったということでございます。

○複合施設化

その後、当法人としては、現在の建物を建替える場合について、予想される問題点を事務的に検討を進めて参りましたが、この過程で建替えを行う場合の基本的な考え方が自然に形成されて参りました。

まず最初に、建替えにあたっては、何に重点をおくか、ということでもございましたが、単に建替えるということではなく、今、社会が何を求めているのか、ということを真剣に検討して、最も必要とするものを計画にのせることが大都市にある社会福祉法人の責務であると考えまして、これを実現するために能率的に行えるような複合施設とすることを基本にいたのであります。

次に、実行上の問題として、このような考え

方が現行の法律制度と予算の中で可能かどうか、ということについて、国、東京都にご協議申し上げましたところ、可能というご判断をいただくことができましたので、以後本格的に施設整備計画の原案作りに入ったのでございます。

○地元世田谷区の助言とご支援

また、当友愛十字会は、現在地に根を下ろしてから当時すでに三十有余年を数えておりましたので、この間の施設経営の経験から、地元あつての福祉施設との考え方から、この計画について地元の世田谷区より数多くの助言を頂戴いたしました。この段階で今回世田谷区から事業の委託をお受けしたものも含めて、この事業計画にまとめられた施設整備の原型といえるものが出来上がったのであります。

なお、当法人としては、かねてよりこれを実



現するため、区に財政的ご支援をお願いしていただいておりますが、ご承認いただいたことが、今日このように事業の完成を見ることが

できた原動力でございました。ここに世田谷区ご当局並びに区議会の皆様からお礼を申し上げる次第でございます。

○東京都を始め関係諸団体の協力

以上のような経過を辿りまして、国や東京都のご理解と世田谷区の財政的ご支援をいただくことが明確になりましたので、次の問題として借入金については社会福祉・医療事業団へ、また、その利子補給については東京都社会福祉振興財団のご支援をいただくことをお願いして、昭和六十三年夏、東京都へ平成元年度より三年度までの施設整備計画書を提出して、平成元年八月に東京都より正式に内示をいただいたのであります。しかし、この年思いもよらない問題が発生いたしました。それは、建設技術者の不足等の理由から、建築費の異常な値上がりがあり、このままでは入札の執行も不可能との状態に陥ったのであります。幸い東京都の臨時的な建設費の単価アップと世田谷区より増額が認められたことにより、着工の見通しがたちましたので、この工事の設計監理を株式会社寿建築研究所に委託し、同年十月に入札を執行して、工事の施工を日産建設株式会社に決定し同社と契約を締結したのであります。

○工事の着工と工事中の諸問題

工事は、平成元年十二月に着工して、以来二年二月を経た本年二月末に竣工いたしました。この工事期間中私どもにとりまして毎日申し訳

なく存じましたのは、ご近所の皆様にご迷惑をおかけしたことでございます。幸いご理解とご支援を賜わりまして無事この工事を完成することができましたことを、ここに有難く厚くお礼を申し上げます。

また、この工事が更地に建てるのではなく、入所者全員を入所させたままの工事でありましたので、この間、入所者を始め職員も共に大変不自由をかけましたが、このことについての不満の声もなく、また工事中、怪我が皆無であったことは、私ども管理者にとつて最大の喜びでございました。またこのことは、工事を担当する側にとつても特別な配慮を必要とすることも多く、施工者にとつて最も工事のしづらい現場であったと思います。しかし、施工にあたっては誠心誠意努力して下さった設計事務所を始め、工事を担当された日産建設株式会社と、工事現場の所長さん以下、関係者の皆様のご努力に対し、心からお礼を申し上げます。

次にこの施設整備に要した費用でございますが、総額で二十九億八千八百四十万四千円となっております。うち国庫補助金を含む東京都の補助金が十一億四千五百九十九万七千円、世田谷区から後年度負担金を含めて十七億七千七百二十一万一千円、このうち補助金として九億四千四百八十八万一千円、社会福祉・医療事業団からの借入金返済分が八億三千五百八十万円となっております。法人負担分は七千二百二十二万六千円でございます。

なお、東京都共同募金会、中央競馬福祉財団、東京馬主協会及び東京都公園協会等の各助成団体様から多額の助成金を頂戴いたしております。本当に有難うございました。

○整備を終えて

今回のこの施設整備事業の特色は、身体障害者福祉法及び老人福祉法の二法にまたがり、施設数も五施設二センターを数えていることにあると思います。

まず創設施設としては、特別養護老人ホームと、身体障害者福祉ホーム、それに世田谷区から事業の委託をお受けしている高齢者在宅サービス事業及び高齢者のためのショートステイ事業、並びに身体障害者在宅デイサービス事業及び身体障害者のためのショートステイ事業を行う二つのサービスセンターがあります。また、今回全面改築した養護老人ホームと、一部増改築を行った身体障害者授産施設及び重度身体障害者授産施設の二施設を擁する典型的な都市型の複合施設でございます。

しかし、各施設ごとの内容については種々十分な面もありますが、今後皆様方のご指導とご支援をいただきまして最大限に施設の機能を發揮できますよう研鑽に努めて参る所存でございます。

以上をもちまして工事経過の概略を申し上げます。有難うございました。

落成式当日の状況

平成元年十二月に着工した友愛十字会世田谷地区施設整備事業の竣工を祝う落成式は、五月十二日に本会総裁の寛仁親王殿下及び同妃信子殿下をお迎えして、新装成った世田谷区砧の施設内で盛大に催されました。

心配された天候は、この日を祝うかのように晴れわたり、会場となる建物のタイルが朝日に映え、前庭はきれいに掃き清められ、ご来賓の皆様をお迎えするばかりに準備が整っていました。

式典

加藤威二会長を始め、役職員がお出迎えする中を、両殿下は予定どおりご到着になり、定刻十一時に本館四階で落成式は始まりました。石井本会事務局次長の開会の辞のあと、加藤会長の挨拶と総裁寛仁親王殿下のお言葉があり、続いて、草原常務理事の工事経過報告が行われ、次いで二種類の感謝状が贈呈されました。一つは、多年にわたり継続して本会に建設資金を寄附された次の方に、寛仁親王殿下より贈呈されました。

- 一 普濟寺 住職 弓場重昌様
- 二 関東ボウリング場協会様

三 ジャパン・レディスボウリング・クラブ代表
次に、建築関係者に対し、会長より贈呈されました。

一 株式会社寿建築研究所
代表取締役 坂田 淳様

二 日産建設株式会社
代表取締役社長 鎌田 勲様

引き続き、ご来賓を代表して、
一 厚生大臣代理 社会局長 末次 彬様
二 東京都福祉局 次長 伊藤陽介様
三 世田谷区長代理 助役 吉越 一二様
お三方からお祝辞を頂戴しました。

次いでご来賓の紹介を行い、閉会は、この四月一日付をもって特別養護老人ホームの園長に就任した、富永一夫が閉会の辞を述べ、第一部の式典を閉じました。

披露宴

第一部に続いて、正午より、別館一階で披露宴を行いました。

加藤会長による開宴の挨拶のあと、世田谷区議会議長五十畑孝司様と、全国社会福祉協議会常務理事板山賢治様からお祝辞をいただき、そのあと関係者を代表して、日本身体障害者スポーツ協会会長葛西嘉資様の乾杯の音頭により、落成を祝福していただきました。その後ご歓談を

いただき、午後一時二十分過ぎに友愛ホームの山本照彦園長の閉会の辞をもって終了いたしました。

なお、当日は、厚生省、東京都、世田谷区の関係者を始め、関係団体、授産事業関係者、ボランティア、地元関係者など約二百五十名のご臨席をいただきました。心から御礼を申し上げます。

落成式を終えて

この四月一日に採用された新しい職員を含め、友愛十字会世田谷地区施設に所属する全職員が、平成四年五月十二日のこの日のために、共に一生懸命に準備し、ご来賓をお迎えして、無事に式を終えた後の顔は、それぞれ晴れ晴れしく輝いて見えました。

落成式の中で賜りました総裁寛仁親王殿下のお言葉は、多くの人々に大変深い感銘を与えられました。また、新築の建物を見学された方々からも、良い印象を持たれた言葉を聞いて、心から有難く感じた次第です。

この佳き日を機に、約二年三月にわたった長い工事期間中、大変ご不自由をお掛けした利用者の方達には、新しい施設に入って喜んでいただくことは当然であります。加えて、これからの生活を、それぞれの目的に応じて、十分ご満足いただけるような処遇を行なわなければと職員一同心に銘記した一日でした。

落成式に賜ったご芳志

敬称略 あいうえお順

愛隣会鮎川英男、安立園栗山誠治、アゼリア会美山苑中山三男、愛弘会青梅愛弘園大石一夫、アンリツ辻益雄、葵電子工業新井操、赤尾五郎、石井徳次、五十嵐庸二、泉の家永田泉、飯野澄江、石神俊恵、遠藤孝夫、大貫清太郎、小方ツネ、小川製作所小川真佐士、大蔵東部町会加藤忠蔵、大蔵住宅自治会、大蔵木材工芸、川上雄渾、河島春蔵、川口次郎、合掌苑市原秀翁、関東ボウリング場協会池田朝彦、関東ボウリング場協会鴨下三郎、加藤酒店、砧町会竹内淳夫、砧町自治会石澤永吉、協和埼玉銀行祖師谷支店宮澤憲治、北村和子、玉葉会池清、ケアコム牧野稔、近藤微風、高齢者センター新樹園坂戸

義夫、康和会久我山園大沢一六、シルバーサービス振興会鈴木可人、ジャパンレディスボウリングクラブ須田開代子、品川総合福祉センター多田裕、至誠学舎至誠ホーム橋本正明、信愛報恩会信愛の園岡崎喜美男、仁生社高砂園明石宗治、白川富子、進藤毅、鈴木無線電機鈴木克己、杉本百合子、杉山整形外科杉山正伸、清明会曾我恒市、聖明福祉協会本間昭雄、全国土木建築国民健康保健組合竹内寛、全国建築物飲料水管理協会東京支部佐川弘、成城警察署内山明二、成城消防署中嶋次男、成城郵便局野村吉信、世田谷通り砧商店街振興組合武沢与五郎、世田谷区社会福祉協議会武田治恵、世田谷区身体障害者福祉協会児玉明、世田谷

区身体障害者福祉協会砧支部飛田享、世田谷区I K K福祉協会小室昇太、世田谷区肢体不自由者父母の会長谷川七郎、世田谷医師会米倉亮、世田谷婦人大学本田シズエ、世田谷ボランティア協会鳥居誠、祖師谷南商店街振興組合下谷秀雄、高木玲紫、田代光子、田口隆治、高橋周蔵、長寿社会開発センター荏安達男、テレビ朝日福祉文化事業団酒井平、東京都社会福祉協議会宮澤成実、戸山サンライズ小林昭三、東京厚生年金スポーツセンター福田勉、東京援護協会山口桂造、東京都用賀技能開発学院茂尾純一、東京リハビリ協会斉藤公生、東京都失明者更生館坂本行偉、東京有隣会石井薫、東京かたばみ会鳴海義夫、東京都福祉事業協会瀬戸新太郎、東京ミュージックボランティア協会赤尾建彦、内藤千紗子、奈良電機研究所奈良允博、長島英行、二瓶隆一、日本臨床看護家政協会高木寿之、日本肢体不自由児協会宮沢裕、日本社会事業大

学小池欣一、同三浦文夫、日本キリスト教団砧教会西村俊昭、日本フレンズ奉仕団フレンズホーム兼田直、日本フレンズ奉仕団福栄会島山陽、日化ゴム工業笠原徳太郎、沼尻善四郎、沼尻智恵子、野中脩之、博仁会斉藤邦雄、羽鳥武雄、橋本よしの、浜口武、浜中米店、ビューティーサロン真、東北沢つどいの家小野寺政雄、ふれあい公社吉越一二、富士記念財団箱崎啓知、古木会成城アルテンハイム白井敏夫、細谷まち子、丸山工務店斉藤久男、松本千鶴子、町田メデイカル、三和会井上善雄、村上松五郎、本尾登茂恵、森田博英、山吹の会黒沢貞夫、山本看護婦家政婦紹介所山本晶久、山川満、柳田一弥、蔵田千賀子、有隣ホーム十時久枝、ユーエスアドタイプ、浴風会三上唯夫、同高橋喜三郎、同南陽園松尾和昌、同第二南陽園川上康雄、黎明会佐野利三郎、同中島俊寛、老後を幸せにする会堀江浩子

絵画のご寄贈

新しい建物の完成に際し、(財)日本チャリティ協会(高木金次理事長)様、春風亭柳昇様、日本民生文化協会常務理事大橋 博様及び山田澄代様を通じて、次の斯界における高名な諸先生から絵画のご寄贈を賜りました。

- 一 安 西 啓 明 様 「中禅寺湖夕」
- 二 小 高 弘 之 様 「富士山」「聖母マリア」
- 三 勝 木 て る お 様 「花柄のセーター」
- 四 川 村 青 州 様 「富士」
- 五 北 川 正 浩 様 「デッサン・モンマルトルにて」
- 六 北 川 節 子 様 「鳥と少女」
- 七 小 島 信 明 様 「INDOOR」
- 八 斉 藤 英 一 様 「初秋の奥日光」
- 九 斉 藤 恵 美 子 様 「花」
- 十 島 千 映 様 「あじさい」
- 十一 津 田 光 郎 様 「漁港」
- 十二 堂 昌 一 様 「矢切の渡し」
- 十三 戸 田 み つ き 様 「ななだるの滝」
- 十四 原 榮 三 郎 様 「富士百景―湖畔の赤富士」

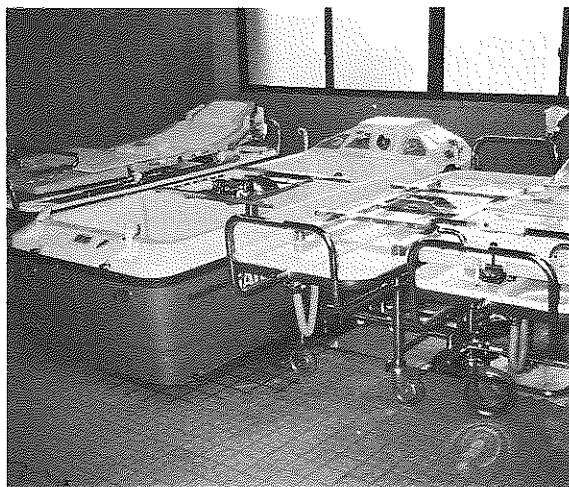
ご助成御礼

平成元年十二月に着工し、平成四年三月に完成いたしました世田谷地区施設整備事業におきまして、次の助成団体から設備整備のご助成をいただきました。各団体の皆様に心から御礼を申し上げます。

- 一 東京都共同募金会様
 - (一) 特別養護老人ホーム「砧ホーム」及び在宅老人デイサービス事業「砧デイサービスセンター」の介護入浴装置 二基
 - (二) 養護老人ホーム「友愛ホーム」のキッチン用品 一式
 - (三) 身体障害者福祉ホーム「コーポ友愛」及び「砧デイサービスセンター」の共同浴槽浄化装置設備 一式
- 二 中央競馬社会福祉財団様
 - 「砧ホーム」のギャッチベット六十六台
- 三 東京馬主協会様
 - 身体障害者授産施設「世田谷更生館」の車椅子用エレベーター設備 一基
- 四 東京都公園協会様
 - 植栽工事
- 五 全国労働者共済生活協同組合連合会様
 - 研修室放送設備 一式



ギャジベット (中央競馬社会福祉財団様)



介護浴装置 (東京都共同募金会様)

社会福祉法人友愛十字会役員名簿

(平成4.7.26 現在)

区 分	氏 名	区 分	氏 名
総 裁	寛 仁 親 王 殿 下	監 事	寺 田 勤
顧 問	中 山 素 平	〃	田 崎 清 春
会 理 事 長	加 藤 威 二	評 議 員	宗 石 文 男
理 評 議 事 員	葛 西 嘉 資	〃	陣 野 茂
〃	村 山 悠 基 雄	〃	池 清
〃	實 本 博 次	〃	井 手 精 一 郎
〃	瀬 戸 新 太 郎	〃	板 山 賢 治
〃	町 田 英 一	〃	初 山 泰 弘
〃	木 下 茂 徳	〃	池 堂 政 満
〃	氏 家 馨	〃	苅 安 達 男
〃	平 田 栄	〃	柳 沢 重 男
〃	金 瀬 忠 夫	〃	高 木 金 次
常務理事	草 原 国 司	〃	森 野 亮 一 稔
		〃	村 田



友愛デイサービスセンター(身障)帰宅風景

善意のかずかず

平成三年度に、次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(寄付金)

3・4・1・4・3・31

敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

安藤寿雄、新井電気、石川畳店、
今井勇、井山建設(株)、井上洋品
店、石井アサ子、魚久、大蔵湯、
大蔵木材工業(株)、オークラスト
アー、小野坂豆腐店小野坂義弘、
おしやれ床やボヌール、大蔵東
部町会、大蔵住宅自治会長宮崎
春代、大蔵自動車商会代表取締
役長島英行、御食事処まやま、
小方つね、大西栄、大西幸男、
大蔵電気、小野和美、貝塚富江、
川上雄渾、菓祥庵青柳、関西ボ
ウリング場協会長次田誠三郎、

関東ボウリング場協会、カナイ

屋精肉店、祐教会教会学校、祐

商事奈良友雄、木村君枝、木村

タケヨ、祐町自治会、祐町町会

長竹内淳夫、祐太鼓同好会、小

料理そうべい、光寿会、国際放

映(株)、小池英一、佐々木記念基

金、作佐部広子、進藤毅、ジャ

パンレディスボウリングクラブ、

清水英雄、白川富子、昭和女子

大付属中高部生徒会、(株)銭高組

東京支社、世田谷区身体障害者

福祉協会祐支部、世田谷区IK

K福祉協会、世田谷通り祐商店

街振興組合、世田谷区身体障害

者福祉協会長児玉明、全国労働

者共済生活協同組合連合会、祖

師谷南商店街振興組合、太丸屋

衣料(株)、千歳農業協同組合婦人

部、綱島澄夫、鳥居しつ子、同

栄信用金庫世田谷支店長菅原啓

二、東華飯店、東京都用賀技能

開発学院、東急弘潤会、戸田市

社会福祉協議会、東邦生命保険

相互会社、内藤千紗子、長島光

重、長崎愛子、内藤寿昭、南部

自動車(株)代表取締役山本晴之介、

日本福祉教育専門学校、日本福

祉大学実習センター、日商ハウ

ジング代表取締役西川孝、日産

建設(株)、日本聖公会東京教区聖

愛教会、新座市社会福祉協議会、

沼尻善四郎、畑野章雄、浜中米店

ビューティーサロン真、ひたちや

精肉店、ひまわり厚生財団、普濟

寺住職弓場重昌、藤蔭静照、ヘア

ーサロンスタート、星野商店、細

谷まち子、丸山工務店、松本博之、

三ツ和会有志一同、宮川高子記念

基金、三戸部自動車、森政子、豊

不動産、山本晴之介、山下英子、

八百周山川満、山本正美、やぶ久

柳屋商店、横山青果店、リビング

タカハシ

○東京都ろうあ者更生寮

奥多摩町社会福祉協議会、秩父市

社会福祉協議会

○友愛荘

浅野幸生、遠藤修、及川健一郎、

及川健司、上根寿老会、菅野昭

正(二回)、(株)現代建築、小峰服

飾専門学校、小林繁広、佐藤彰

家、佐藤茅子(二回)、佐藤福正、

佐藤由孝、下小山田寿老会、城

南信用金庫原町田支店(二回)、

図師寿会(三回)、高見台健康友

の会、玉川学園、東京紀尾井町

ライオンズクラブ、東京桜ライ

オンズクラブ、長沢優子、ニコ

ニコシルパー会、根岸老友会、

橋本好明、富士作業所、森野清

楽会、矢部町老友会、友愛荘後

援会(四回)

(寄付物品)

○世田谷関係

朝日生命藤谷泰道様氣付朝日生命

職員労働組合本社地区、阿部ツネ、

石田靖子、石田潮司郎商店、伊藤

観光協会、カトリック成城教会エ

リザベット会福祉部、関電工労働

組合東京支部青年婦人部、キリン

ビール、コナミ、世田谷菊花展実

行委員会実行委員長宗田栄一、世

田谷社会福祉協議会、竹中久一、

東京成城ライオンズクラブ、東京

善意銀行、東京都種類協同組合、

東穀協会、日本航空、日本タバコ

産業、日本使い捨てカイロ同業会、

B・Bサンタクロースチャリティ

事務局、宮島春三、モンテ物産、

ヨックモック、米屋、若葉会

○東京都ろうあ者更生寮

板橋区社会福祉協議会、ジェスク

音楽文化振興会、中牟田幸江、日

ソ親善協会、日本バレーボール協
会、日本福祉機器研究所、三井物
産株式会社

○友愛荘

石田潮四郎商店、N T T町田営業

所、清野安吉、キリンビール(株)(二

回)、佐藤光雄、柴田一幹(二回)、

島田良男(三回)、東京紀尾井町ラ

イオンズクラブ、東京都食肉環境

衛生同業組合、東京善意銀行、東

京都種類協同組合、新潟県関川村

役場議会事務局、日本たばこ産業

(株)八王子営業所(二回)、ふるさと

渋谷青少年社会参加推進委員会

(二回)、町田市魚商業組合、町田

東急百貨店、モンテ物産、安田信

託銀行(二回)、米屋(株)

(慰問)

○友愛ホーム

あすなろ会、資生堂、成城消防少

年団、日本キリスト教団祐教会、

ひまわりの会、平岡会、宮島春三、
目黒星美学園小学部、若葉会

○友愛荘

大塚千代美、桜美林幼稚園、桜美

林大学、小山田桜台保育園、コー

ル忠生、三遊亭左圓馬、鈴木安夫、

高見台健康友の会、帝京大学福祉

保育専門学校、天理教北多摩婦人

部、ときわ保育園、東京紀尾井町

ライオンズクラブ、東京桜ライオ

ンズクラブ、中嶋雅子、ニコニコ

シルバー会、日本福祉教育専門学

校、ぶどうの会、ふるさと渋谷青

少年社会参加推進委員会、ボーイ

スカウト町田第三団、町田福祉専

門学校、みのり幼稚園、山吹会、

弥生会

(招待)

○世田谷関係

朝日新聞厚生文化事業団、エミィ

インターナショナルアートミュー

ジックソ連ポリシヨイサーカス公
演本部、カトリック成城教会福祉

本部、劇団虹つ子、産経新聞大阪

新聞厚生文化事業団、武富士、ダ

スキン愛の店ダスキンコントロー

ル事業部、東邦生命保険相互会社

広報室、東京を明るくしよう会事

務局、東京成城ライオンズクラブ、

東京原宿ライオンズクラブ、東京

ミュージックボランティア協会、

友愛十字会後援会

職員異動

3・4・2 \ 4・4・1

○世田谷更生館

採用指導員 松本光正 4・4・1

調理員 川崎美知子

退職指導員 松本直子 4・1・15

指導部長 武田次男 4・3・31

調理員 望月光樹

○友愛園

採用調理員 石黒伊都子 4・4・1

営繕手 和田良平

友愛ホームより配置換

調理員 杉浦ハルイ 4・4・1

服部恭幸

○友愛デイサービスセンター

採用センター長 小島修治 4・4・1

事務員 田中なをみ

指導員 荒岡重善

寮 母羽鳥智子

阿部有紀子

寮 父北沢良博

作業療法士 中村光伴

○東京都ろうあ者更生寮

採用調理員 菅原みさお 4・2・1

寮 長兄玉晶雄 4・4・1

退職寮 長佐藤徳治 4・3・31

○友愛ホーム

採用寮 母森下明美 4・4・1

三上留子

友愛園より配置換

調理員 松井礼子 4・4・1

岩瀬明子

成田好孝

退職指導員 三浦祐悦 3・6・30

寮 母小川昌子 4・3・31

○友愛荘

採用指導部長 高野 昭 4・4・1

寮 母佐久間和子

穴山末子

看護婦 河井富子

運転手 上田憲治

退職指導部長 幕田秀夫 4・3・31

○砧ホーム

採用園 長富永一夫 4・4・1

調理員 川邊直美 4・4・1

医師 高橋正司 4・4・1

事務員 佐藤容子

指導員 矢吹久美子

寮 母大田黒啓子

上田 桂

武田啓子

小菅わかさ

佐藤宏美

東 夏織

田中昌幸

斉藤明弘

金井博美

倉持順一

小林加奈子

平山浩介

看護婦 岡崎敬子

小田切和子

細川喜美子

栄養士 川嶋知子

調理員 和田ヒロ子

志村つえ

マサジ師 稲葉富士雄

友愛荘より配置換

寮 母長高橋好美

友愛ホームより配置換

寮 父棚原 正

寮 母田中聖美

寮 母浅沼愛子 4・4・1

調理員 藤田正廣

志藤洋子

世田谷更生館より配置換

調理員 柴田信子

○砧デイサービスセンター

採用センター長 後藤文彦 4・4・1

指導員 山本かの子

川岸一徳

寮 母佐久間副子

藤木敏子

真野田公子

鈴木理恵

大平直子

理学療法士 石井雅子

介助員 原島靖子

調理員 内沼 章

友愛ホームより配置換

庶務部長 田渡昌雄

○コーポ友愛

採用寮 母小野悦子 3・10・1

友愛十字会主要行事

平成 3・4・1・4・3・31

4・8	手話講習会開講式(寮)	10・6	合同運動会(館・園・ホ)
4・10	地域交流花見会(荘)	10・15	手話講習会開講式(寮)
5・1	端午の節句(荘)	10・20	愛のステージ(館・園)
5・5	端午の節句(ホ)	11・1	開園記念式(荘)
5・28	浅草ビクニック(ホ)	11・1・5	文化祭(荘)
5・31	東京都身障スポーツ大会 (館・園)(寮)	11・6・7	石和温泉旅行(ホ)
6・5	箱根芦ノ湖社会見学(荘)	12・1	宮様チャリティーボウリ ング大会(館・園)
6・21	東京電力工場見学(館・園)	12・20	年末懇親パーティー(館・園)
7・5	七夕祭り(荘)	12・21	自治会忘年会(寮)
7・6	父兄会(館・園)	12・24	クリスマス会(ホ)
7・7	七夕まつり(ホ)	12・25	年忘れの集い(荘)
7・13	盆法要(ホ)	12・27	餅つき大会(ホ)
7・18	臨海公園社会見学(寮)	1・10	新年祝賀の集い(荘)
7・23	納涼盆踊り大会(ホ・ 館・園)	1・31	運営打合せ会(コ)
8・21	地域交流盆踊り大会(荘)	2・2	池袋シアター社会見学(寮)
9・15	敬老の日(ホ)	2・3	節分(ホ)
9・19	敬老祝賀の集い(荘)	2・4	節分・豆まき(荘)
9・22	区身障スポーツ大会(寮)	2・5・6	スキー教室(館・園)
9・24	向ヶ丘遊園ハイイク(寮)	2・7	新橋演舞場観劇会(ホ)
10・3	手話講習会修了式(寮)	2・29・3・1	耳の日大会(寮)
	梨狩りハイイク(寮)	3・3	ひなまつり(ホ)
		3・17	ひな祭り(荘)
			春彼岸法要(ホ)
			手話講習会終了式(寮)
			(注)
			館(世田谷更生館)
			園(友愛園)
			ホ(友愛ホーム)

寮(東京都ろうあ者更生寮)
荘(友愛荘)
コ(コーポ友愛)

編集後記

●二年三月余に亘る「施設整備事業」完成後も色々なことがありまして本誌の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

●平成四年五月十二日、友愛十字会世田谷地区施設整備事業完成落成式が総裁寛仁親王殿下同妃信子殿下ご臨席のもと、芽出度く本館四階特設会場において行われました。本号はその記念特集号です。

●落成式における総裁寛仁親王殿下のおことは「記念すべき日に当り、これから第二の世田谷地区における歩みを始めたいと思います。」を新時代への進路として、職員一人ひとり肝銘したところであります。

●時代の要請に応えるためには、職員は自ら律する基準を持ち(単なる内輪の基準のみを優先させるということではなく)それぞれの「場」において、寛大、優しさ、共感能力のある対象者の方々の奥行

のある生活実感の幅の広さを深く学び、人間らしい相互の依存関係を強め合いながら、使命を果すプロとして白らの意見を持つことの意味を認識することが必要です。

そして、友愛の表現に満ち、共通の目的に向って希望と新しい力が溢れ出るような「場の構築」を志向する姿勢こそが、その「鍵」であることを強調したいと思います。

●更には、落成式第一部閉会の辞「この福祉施設を基盤として、高令者と障害者が地域の中で安心して生活ができることを目標としてきめ細かくニーズに対応した援助サービスの実践に努力する」ことをとおして、より普遍的安定性のある豊かな心ある施設運営の実現が真に求められることであらうでしょう。

(祐ホーム・富永記)

ゆうあい

十二号

平成四年九月三十日

発行

発行 社会福祉法人 友愛十字会

発行人 草原 国司

〒157 東京都世田谷区砧

三丁目九番十一号

電話 (03)三四一六二二六